

高岡市新幹線新駅周辺景観形成ガイドライン

高 岡 市

平成 24 年 3 月

目 次

1. 新高岡駅(仮称)周辺景観形成ガイドライン策定の目的と範囲	1
(1) ガイドライン策定の背景と目的	1
(2) ガイドラインの対象範囲	1
2 景観形成のテーマ及び方針	4
3 景観形成ガイドライン	5
(1) 富山・能登・飛騨地域の交流拠点としての新たな顔づくり	5
(2) 緑とうるおいの空間づくり	7
(3) 新駅周辺の新たな賑わいづくり	10

1. 新高岡駅（仮称）周辺景観形成ガイドライン策定の目的と範囲

（1）ガイドライン策定の背景と目的

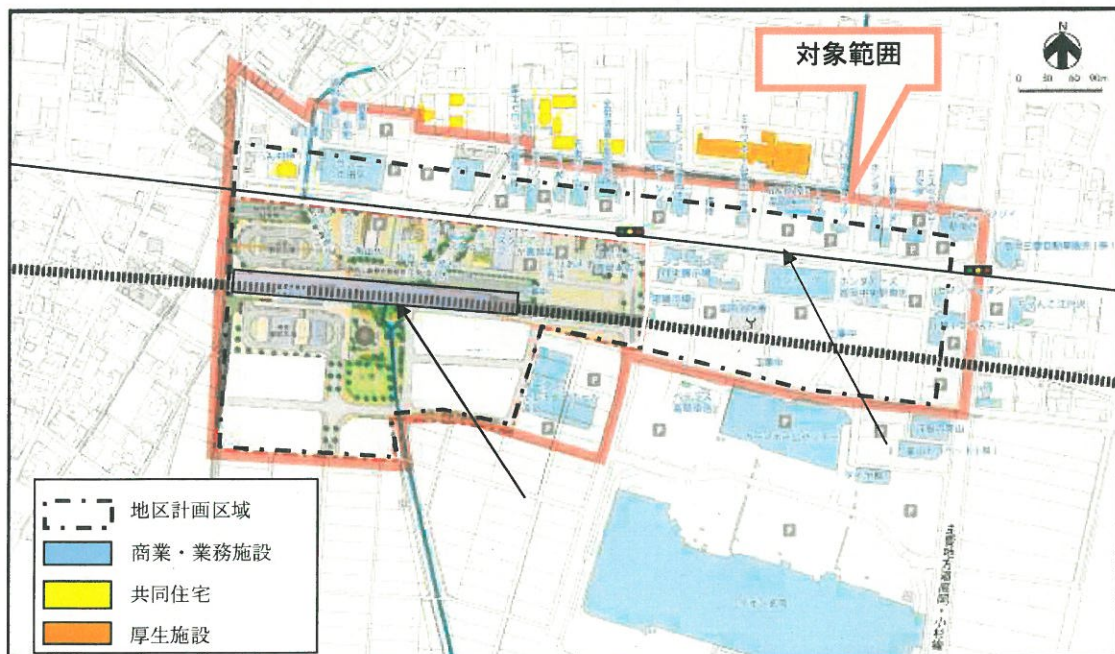
高岡市では、平成 26 年度の北陸新幹線開業に合わせて、新幹線新駅周辺地区の整備を進めており、新幹線開業に伴い、広域からの来訪者の増加が見込まれています。

また、当地区には、市街地の環状道路に位置づけられている（都）下伏間江福田線が通っており、隣接区間で進められている拡幅整備により、今後、車や人の通行量の増大が予想されます。

このことから、景観形成ガイドラインは、高岡の新たな玄関口となる新幹線新駅周辺の適正な景観誘導を図るための指針とするものです。

（2）ガイドラインの対象範囲

景観形成ガイドラインの対象範囲は、新幹線新駅及び（都）下伏間江福田線沿道を中心に、新駅周辺地区 地区計画区域（17.9ha）を含む、約 22.4ha の範囲とします。



※地区計画の目標

新幹線開業効果を活かすとともに、新たなターミナルとしての利便性や多様な交通網等の立地特性を活かし、新駅周辺にふさわしいまちづくりを進める。

2. 景観形成のテーマ及び方針

当地区では、北陸新幹線新高岡駅（仮称）周辺まちづくり計画（平成19年4月）において、以下の景観形成方針を定めています。

■新高岡駅（仮称）周辺の景観形成方針（計画書の抜粋）

新高岡駅（仮称）周辺の景観形成方針は、まちづくりの整備目標である「新たな時代に向けた県西部地域並びに飛騨・能登地域のにぎわいと交流拠点づくり」の具現化を目指して、以下のとおりに設定している。



[もてなしの空間づくり]

- 地域の特徴を感じさせる空間を形成する。
- 自然景観を活かしながら、水と緑に囲まれたやすらぎのある空間を形成する。
- お年寄りや子ども、外国人に配慮したユニバーサルデザインを採用する。

[新たな時代を具現化する空間づくり]

- 新たな時代を表現するシンボル景観を形成する。
- 地域の歴史、文化を表現する景観を形成する。

[にぎわいの空間づくり]

- 新たな観光名所となるにぎわいのある景観を形成する。

上記方針や地区特性及び現地調査による課題等から、検討地区の景観形成のテーマ及び景観形成方針を以下のとおり決めました。

<景観形成のテーマ>

「飛越能の玄関口にふさわしい、賑わいとうるおいある景観づくり」

<景観形成の方針>

顔

■富山・飛騨・能登地域の交流拠点としての高岡の新たな顔づくり

高岡市の新たな玄関口・交流拠点として、都市的な魅力と活力が感じられるとともに、新駅の駅舎も意識した調和と秩序ある景観形成を目指す。

潤

■緑とうるおいの空間づくり

敷地の緑化を推進するとともに、用水などの景観要素を生かすうるおいある景観形成を目指す。

賑

■新駅周辺の新たな賑わいづくり

ゆとりある歩行空間の創出、敷地照明や建物照明の演出などにより、賑わいの感じられる景観形成を目指す。

3. 景観形成ガイドライン

景観形成方針に基づき、ガイドラインを以下のとおりとします。

ガイドラインは、主に民有空間に関する事項（●）、主に公共空間に関する事項（○）に分類しています。

1. 富山・飛騨・能登地域の交流拠点としての高岡の新たな顔づくり

都市的な魅力と活力が感じられるとともに、新たに整備される駅舎や広場と調和した秩序ある周辺の景観を形成する。また、新駅からの眺望景観にも配慮する。

<参考：駅舎イメージ>

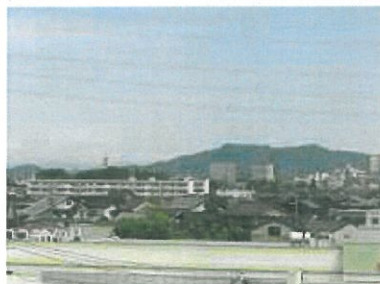


A 眺望景観の保全

- 新駅舎のプラットフォームから二上山等への眺望に配慮し、建物や工作物等の高さ及び配置に留意する。
- 瑞龍寺からの眺望に配慮し、建物の高さに留意する。



瑞龍寺から新駅方向を望む



新駅から二上山方向を望む

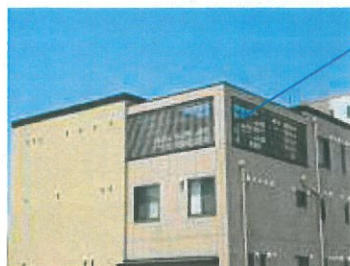
B 周囲と調和した形態意匠

- 建築物の形態意匠については、過剰なデザインを避け周辺建築物や施設との調和に配慮する。



●設備機器などの修景

→建物に付帯する設備機器類は、建物との一体性に配慮するとともに、高岡らしさの感じられる「さまのこ」のデザインなどを取り入れた修景に配慮する。



遮蔽修景



「さまのこ」をイメージしたデザイン

●ゴミステーション等は配置場所に配慮するとともに、道路に面して設置するものについては、建築物と形態や意匠等が調和するように配慮する。



ゴミステーションの修景

C

色彩、素材の配慮

●新高岡駅（仮称）の駅舎に用いられるカラースキームを意識した色彩を用いるよう努める。



- 高い彩度は避け、周辺環境(空や樹木、土や石など)と馴染みやすい色彩(暖色系の低彩度色)を用いる。また、歴史文化を継承した落ち着いた色と風格のある色彩の採用に努める。
- 壁面等の一部に宣伝効果の高い強調色(アクセント色)を用いても良いこととするが、過度な強調は抑えるなど、周辺景観に配慮する。
- 素材の工夫
 - 時間の経過により劣化しにくい素材を用いて景観の維持管理に努める。
 - 素材の一部に高岡の地場産材を用いるなど、地域性の演出(高岡らしさ)に配慮する。
- 適切な維持管理を行い、美観の維持・向上に努める。



高岡銅器



アルミ素材等

D

景観に配慮した屋外広告物

- 建物や周辺の景観に調和するよう、大きさ、配置、色彩等に配慮する。



景観に配慮した屋外広告物

- 自家用以外の野立広告物は、設置しない。
- ネオン管など光源が露出したものや、光源が点滅する広告物の使用は避ける。
- 時間の経過により劣化しにくい素材を用いる。



野立広告



ネオン広告

- 屋上広告物は、プラットホームからの眺望に配慮する。



2. 緑とうるおいの空間づくり

敷地の緑を増やすとともに、季節を感じる樹木などにより自然豊かでやすらぎの感じられる景観を形成する。また、用水や用水沿いの樹木などを活かし、うるおいのある景観を形成する。

A 駐車場の緑化等

- 外周の植栽や道路に面する部分に生垣を設けるなど、沿道からの見え方に配慮する。



外周の植栽



植栽とオブジェ

- 駐車場の舗装は素材や仕上げに配慮する。



駐車場カラー舗装

B ベランダや屋上緑化の推進

- 共同住宅のベランダや一般住宅の玄関前には、できるだけ植栽を行い、緑量の確保に努め、自然環境の育成に配慮する。
- ビルなどの壁面や屋上の緑化に努め、緑豊かでうるおいある空間を形成する。



屋上・ベランダ緑化

壁面緑化

C 緑の連続性

- 〇沿道敷地の緑や歩道の街路樹などにより緑の軸を形成する。
- 〇四季の変化が感じられる樹木を取り入れるなど、自然豊かな環境の創出に努める。
- 〇歩行の妨げ、夜間照明の支障、樹形の乱れによる景観阻害とならないよう適切に維持管理する。



沿道敷地の緑



四季の変化が感じられる樹木

D 水と緑の豊かな空間の形成

○用水路沿いのサクラに加えて、低木や草花等を植栽し、住民や来訪者が安らげる豊かな水と緑の空間を創出する。



用水と一体となった緑（植栽）の配置による潤いある空間

参考：高岡市の花、木、花木

→市の都市像のキーワード「水・みどり」「人 光り輝く」と、「親和性（栽培性）」を3つの視点とし、市の植物の文化史を踏まえた結果、以下の花や木が選定されている。



かたかご：タカクリ



つまま：タブノキ



サクラ

→平成23年度に策定された高岡市グリーンプランには、上記の花、木、花木に加え、万葉集に詠まれた花や樹木の植栽や普及を推進することとしている。

3. 新駅周辺の新たな賑わいづくり

ゆとりある歩行空間やエントランス広場、花やベンチの演出などにより賑わい空間を創出するとともに、敷地照明や建物照明の演出などによる夜間も賑わいの感じられる景観を形成する。

A 賑わいの感じられる空間の創出

- ベンチやプランター等の設置により通りの快適さ演出し、気軽に立ち寄れるような雰囲気をつくる。
- 沿道施設では花を育み、華やかで賑わいの感じられる景観を形成する。



B ゆとりある歩行空間の創出

- 沿道建築物の壁面後退等により、歩道と一体となった空間の創出に努める。



C 良好な夜間景観の形成

- 夜間も賑わいの感じられる景観を創出するため、間接照明やパイプシャッターなどにより内部の灯りが沿道を彩るような演出に配慮する。
- フットライトやガーデンライトなどによる、安全で安心な沿道空間の創出に努める。
- 街路灯は最低限の明るさを確保するとともに、街路樹なども含め、昼夜のトータルデザインに配慮する。
- 過度な照明とならないよう、灯りの色や配置にも配慮する。



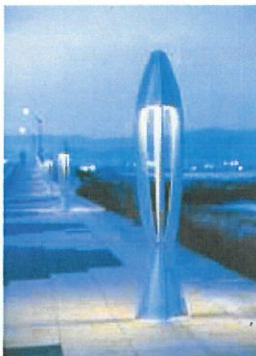
店舗照明による夜間の演出



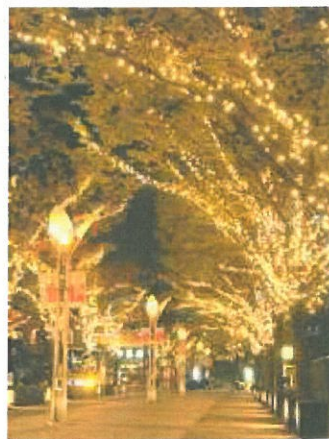
店舗のパイプシャッター



フットライトによる演出



デザインされた照明灯
(富山県HPより)



街路樹や広場の樹木など公共物のライトアップ